

RUN伴+2022 i n 新城

報告書



「走って・学んで・オレンジベンチの思いを繋ごう」

つなぐ



その先に...



令和4年11月

RUN伴+2022 i n 新城実行委員会

① 2022年度開催状況

(1)開催日時

令和4年11月27日(土)午前9時30分から12時

(2)開催場所

- 新城市軽トラ市内(本部設置 最終ゴール地)
- ラン&バイク始発地(西部コミュニティセンター)

(3)当日スケジュール

時刻	行事等内容	備考
9:00	各出発地にて受付開始	
9:20	出発式	西区コミュニティセンター本陣
9:30	ラン・バイク出発	
9:30	大会本部設営 本部会場設営 結カフェ紹介ブース、パンの販売、じゃんけんゲーム、 ベンチ製作ブース	軽トラ市内(ないのんほいらボ前駐車場ほか)
11:30	ランの参加者の迎え入れ、記念品贈呈	
12:00	閉会式、全体記念撮影、撤収、解散	

【参加人数】

- ラン又はバイクでの参加者 60名+1匹
内訳:光田屋(大人35名 子供11名)、明治安田生命(5名)
一般(9名)+盲導犬1匹
- 運営スタッフ 53名
内訳 地域包括支援センター(5名)明治安田生命(18名) 一般(5名)
あみや商事(4名) GH利用者、その家族及び職員(9名)、実行委員(12名)
- その他 約200名(施設利用者との交流者、結カフェ紹介ブース見学者等)

【協賛・協力及び後援等】

- 協賛:14団体、
明治安田生命相互保険会社新城営業所 あみや商事(株) 光田屋(株) (有)千里リースキン、
(医)双樹会 (医)静巖堂医院 ハラダトータルマネジメント(株) 新城ライオンズクラブ、
愛知東農業協同組合、新城ロータリークラブ、トヨタカローラ愛知新城営業所、のんほい劇団、
大工小林(株)、丸利建設(株)及び個人17名

○後援:13団体

新城市、新城市教育委員会、(一社)新城市医師会、新城市歯科医師会、新城市薬剤師会、
新城ロータリークラブ、新城ライオンズクラブ、(一社)新城青年会議所、新城市社会福祉協議会、
愛知東農業協同組合、(一社)愛知県認知症グループホーム連絡協議会、(福)新城福祉会、
新城市商工会

○協力:8団体

愛知県立新城有教館高等学校 手作りの店パン屋さん、あみや商事(株)、新城福祉会、のんほいらボ、市内各結カフェ運営団体、地域包括支援センター、八楽児童寮 (順不同)

【新たなベンチ設置場所】5箇所

新城商工会館、愛知県立新城有教館高等学校、大工小林(株)、つくで手作り村、
特別養護老人ホーム寿楽荘(順不同)

【実行委員会】

- (1) 委員数 12名
- (2) 委員会開催数 延べ12回(詳細下表のとおり)

月日等	開催回数等	協議内容等
1月末	第1回(オンライン)	代表者による2022年版RUN伴プラス開催説明会聴講
2月24日	第2回(オンライン)	役員の選出、今年度の活動方針と企画素案協議
3月23日	第3回(オンライン)	今年度のテーマを決定、『つなぐ その先に』 企画案承決定、新委員のメンバーの推薦・加入
4月20日	第4回(オンライン)	有教館高等学校との結カフェとのコラボ方法の検討
5月25日	第5回(オンライン)	RUN伴プラス2022in新城の企画書作成後援申請書作成 大会当日までのスケジュール確認
6月15日	第6回(対面)	後援13団体内諾確認 チラシ、参加申し込みフォーム検討ランのコース検討
7月31日	第7回(対面)	Tシャツのデザイン決定
8月31日	第8回(対面)	チラシが完成・委員に配布、周知方法検討 パンの試作品完成、試食 Tシャツの見積徴収
9月22日	第8回(対面)	会計収支確認・検討 (協賛・今後の必要経費について確認)
10月6日	第9回(対面)	ラン参加者・応援スタッフ等の申し込み状況の確認
10月20日	第10回(対面)	応援スタッフの役割についてと流れについて確認
11月10日	第11回(対面)	Tシャツの配布と集金について 当日の行程について打合せ *各応援ベンチスタッフにグッズを配布・説明 *ランのコースや安全に向けての啓蒙を参加者に送る
11月24日	第12回(対面)	当日の流れの最終打合せ

② 大会趣旨説明・まとめ等

【はじめに】

RUN 伴 in 新城からの RUN 伴プラス in 新城へ(RUN伴プラスとは)
RUN 伴プラスとは、市区町村単位で RUN 伴を独自で開催する形態です。NPO法人フレンドシップクラブに申請し開催許可を得た新城市の実行委員会が、運営の主権となります。これにより全国統一型のイベントから、自分達で考え、新城市らしいイベントの開催が実施可能となり、協賛金の使い道も広義の市民で考え、独自の運営資金として活用できます。ラン伴+in新城 2021 では、「オレンジベンチプロジェクト」を企画しました。今年度は、そのベンチの活動を継続しつつ、更に一歩前進し、人とのつながりから地域の方と温かな交流が生まれることを狙いにしました。認知症の方、その家族の方、支えられる人達・支える人達、若者から高齢者、障害者等分け隔てなく誰もが気持ちさえあれば何かしら参加できる機会を創出し、その先に安心して暮らせるまちづくりにつながってゆく活動を目指しました。

【オレンジベンチプロジェクトについて】

高齢化が進む新城市・・・新城市内にはベンチが少なく、外出先でゆっくりと座って休める場所がありません。外出先で誰かとおしゃべりできる場所を作るため、認知症ケアのシンボルカラーであるオレンジ色のベンチを新城市内に設置して、ちょっとした気配りで人のつながりを生み出す環境作りを目指し、認知症の啓発活動に加え、誰もが暮らしやすい街づくりを目指すプロジェクトです。

【RUN伴+2022in新城における事業概要と成果】

1) オレンジベンチを巡るスタンプラリー

市内に昨年の活動で設置したオレンジベンチ 11 か所を巡ることで、ベンチの必要性、意味や活動への思いを多くの人に改めて認識してもらうことができた。ベンチを巡るコースも参加する人の体力に合わせ自分で自由に選んでもらうことで、あらゆる人が楽しみながら参加できる機会を創出できた。またベンチ毎に市内企業等からの応援スタッフを配置したことで、日頃出会う事のない人との温かな交流にもつながり、「我がごと、まるごと」の地域づくりに寄与できた。

2)「認知症〇×クイズ」

参加者に巡ってもらい各ベンチに「認知症〇×クイズ」を設置し、それに回答してもらった。基本的な認知症に対する知識を楽しみながら得る機会となり、認知症に対する理解と関心を得ることにつながった。参加された方の中には、クイズを通してもっと認知症について学んでみたいと思う方もいた。

3)市内結カフェの紹介

ゴールである軽トラ市の実行委員会本部では、市内の結カフェ各運営主体と協働し、紹介コーナーを設けた。各結カフェを紹介した展示ポスターをラン伴参加者ばかりでなく、軽トラ市に来られた市民の方も沢山訪れてくれた。市内の結カフェの存在を知ってもらえる良い機会に(支えさせる人達の存在を知ってもらうことで、応援する機会にも)なった。またラン伴の趣旨と結カフェの方向性は同じであり、今回初めて協力できた意義は大きいと考えられる。

4)実行委員会及び市内事業者とのコラボ

実行委員会本部では、有教館高校の生徒が考案したレシピと作成に協力してくれたパン屋さんの協力のもとで「認知症予防に効果があるとされる食材を使用したパン『ハッピーちゃん』を150個販売した。好評を博し、また、参加者及び軽トラ市に来場していた多くの方々に協力いただき、無事完売できた。また、今回初めての試みとして、独自Tシャツの作成に挑戦した。デザインについては、「認知症サポーター養成講座」開催をきっかけにチャンネルのできた、愛知県立新城有教館高校に協力依頼し、生徒さん達の協力により、心のこもった優しいデザインの独自Tシャツを作成できた。大会当日、スタッフや参加者がこのTシャツを着用しているのを見て来場者から「このTシャツ可愛くて素敵。どこで買えますか?」と数件の問い合わせがあった。

「パンの完売」、「Tシャツの評価、購入希望の声」は、協力してくれた有教館高校の生徒さん達と協力いただいた事業者さんの励みとなり、市民活動として、今回も新たな協働の輪を広げられ、市民が主役のまちづくりの活動に昨年より更に一歩前進でき、今後の活動に明るい期待を抱けた。

5)認知症の方と来場者(子ども達)との交流

軽トラ市の会場内には現在、5つのオレンジベンチが設置されている。そのベンチに高齢者施設に入所している認知症の方本人が、その家族、職員の協力を得て、軽トラ市に来ている子ども達とクイズやじゃんけんゲームと一緒に楽しんだ。年齢や性別に関係なく誰もが楽しめる「じゃんけん」を通じた子供とお年寄りの交流は、高齢者にとっては、コロナ禍で外出や人との交流がままならなかったことを吹き飛ばすほどの笑顔が溢れ出る機会となり、子ども達にとっては、核家族化で高齢者との触れ合う機会が減少している中で、認知症である、なしに関わらず、できることもまだまだあり、友達と遊ぶように畏まることなく自然に交流でき、高齢者に笑顔を与えられることを肌で感じてもらえたことを感じてもらえ。その場は、まるで当時の天気のように温かで穏やかな空気が流れた。

また、その風景は支える側の人にとっての支えとなる機会となった。

さらには、認知症になっても外に出かけ、施設内以外の人と触れ合うことの大切さと、少しの配慮でまだまだできることが沢山あることを改めて認識できた。

3 記録写真





一日が無事終わって日が暮れて...

④ アンケートの結果 — アンケートは、ランに参加された方を対象に調査した結果です —

○アンケート回収数(47名)

1)年齢別 10代(3)20代(6)30代(8)40代(10)50代(11)
60代(8)70代(1)

2)男女比 男(21名)女(26名)

10代～30代と60代は女性の参加が多いが、40代～50代は男性の参加が多いことから男性は所属する団体等の地域貢献としての参加、及び純粋に走ること(健康づくり)を動機とした参加、60代の女性は当事者意識による参加、10代の女性は参加する保護者の同行、及び有教館高校とコラボしたことをきっかけにイベント趣旨に関心を抱いての参加、20代と30代の女性は所属する団体等の地域貢献としての参加が主たる参加の動機と推測する。参加の動機は様々であるが、今回の成果として、参加世代に広がりが出てきたこと、運営には苦勞するが、多様な参加形態を作ることで、自分に合った参加方法を選択できることが、今後の企画運営、イベントの目指すまちづくりに重要な視点であると学べた。

3)ラン伴の参加回数 初めて(31) 2回目(16) 3回目(2) 4回目(3)

初めての方が多かったが、後のアンケート内容からは楽しかったと回答が多く次に開催への期待が持てる。この3年はコロナ禍であり2年ほど開催できなかったが、2回目～4回目の参加者が4割強占めている。このことはラン伴の活動が支持されつつあることの証拠と評価したい。

4)参加しての感想 とても楽しかった(16)、楽しかった(23)、普通(1)、楽しなかった(0)

ラン伴の開催までの準備は、テーマからぶれないであらゆることを想定しながら準備を行ってゆくが、開催当日は参加した方が「楽しかった。また参加するね」と思ってもらえその笑顔が、次のラン伴の開催に向けての力になると考える

5)参加費について 高い(4) やや高い(5) 適当である(23) わからない(11)

参加費については、実行委員会でも多方面から議論をしたが、参加費はラン伴の趣旨に賛同しての協力費と考え、将来的には運営を参加費で賄えるようにしていきたい

6)運営について 安心して参加できた(63) わかりにくかった(5) その他(0)

今回は、ランのコースは参加する各自の体力に合わせて自分で選んでもらう形式にしたことが上手く伝わっていない部分もあり、次の企画・運営の際の改善すべき課題としたい

7)認知症〇×クイズについて 認知症の理解につながった(38)

機会があればもっと勉強したい(7) その他(0)

ラン伴は、走ることのみが主になると本来の趣旨にそぐわなくなる。そこで地域包括の方にも協力していただき、ベンチのポイントごとに認知症クイズを設置した。このことで、認知症の基礎的な理解につながってゆき興味を持ってもらえたことは成果であると考え

8)結カフェとの合同開催について

結カフェを知る機会になった(38)

結カフェに行ってみたい(6) 結カフェを教えたい(5)

結カフェの活動に多くの方が、興味をもっていただいたことは大きな成果である。また共同開催は、今後のラン伴の活動に大きな広がりにつながることを期待する

9)「つなぐ その先に」の「先に」どんな思いや言葉を入れますか

みんなの希望 笑顔 愛 優しく温かい思いやりの心

元気に働いて食べてお話しして認知症にならない様努力したい

みんなにやさしい社会…など

理解に難しいアンケート内容だったので、ほとんどの方が、答えは白紙であった。

貴重な回答を大切にこれからの活動に生かしていきたい

10)その他の意見

ランの参加者がもっと増えるように広報すべきである

⑤ おわりに — ラン伴プラス 2022in新城を終えて —

今回も本当に多くの方々のラン伴に対するご理解と協力を得ながら、事故もなく無事終えられたことにまず感謝します。「新城らしいラン伴の活動とは何か」、「5年間の活動の中でラン伴がもたらしたものは何であったか」と、今年度は、過去の活動を振り返り、ラン伴プラスin新城の目指すものは何であるかを考える重要なターニングポイントでもありました。

しかし、活動を始めた5年前には、臨んでも実現できなかつたことでも実現できていることが着実に増えてきていることを実感します。それは、『新城市内で様々な福祉分野において活動や事業を展開している組織・団体・ヒトとのつながりを広げることができ、インクルーシブなまちづくりにまた一步近づけたこと』、『若い世代(有教館高等学校)とのコラボでき、将来に向けての期待が抱けたこと』などです。

また、2021年はコロナ禍でもできる活動は何かを悩み、考えた末に現場からの切実な声から辿り着いた「オレンジベンチプロジェクト」は2022年の活動に継続でき、ラン伴プラスin新城の理念の象徴になりました。

更には、今年度はこれまで組織として協力していただけていなかった地域包括支援センターの協力を得ることができ、結カフェとの協働もでき、大きな前進をみることができました。実行委員会に新しいメンバーも加入してもらえてことで異業種連携が進む基盤ができ、さらに活動の幅が広がったことなどが今年度のイベントの参加員数等数値で表すことのできない大いなる成果であります。

しかしまだ充分できていないことは、当事者の参加による当事者の為の活動であると考えています。コロナ禍という逆風は依然としてあるものの「誰一人取り残されることのない、誰もが暮らしやすい街づくり」は当事者抜きでは始まらないとの強い思いは実行委員会全員の思いとしていささかも揺らぐものではありません。

ラン伴プラスin新城における当事者とは「認知症の人やその家族、高齢者、障がい者、生きづらさを抱える若者や子供、そしてその人達を支える市民です。

この5年間実行委員それぞれが、プライベートの時間を割き、強い思いの元、望ましいまちづくりの実現を夢見て、活動を続けてきた末に、理解示し、陰に日向に支えくださった方々のおかげで、地域共生社会形成に向けた基盤の一つを担えるまでに成長できた「RUN 伴プラスin新城」の活動がもっと市民の一人とし、より多くの市民の方に支持されるものになるために、「めざす その先に」の答えを模索しながら、これからも皆で知恵を出し、楽しく活動を進めていきたいと考えていますので、協賛、協力、応援、参加くださった皆様に厚く御礼申し上げます。併せて、皆様におかれましては、これからも一層のご指導、ご支援、ご鞭撻の程宜しく願いいたします。

ラン伴プラス 2022in新城実行委員会

代表 原田 郁代

熊谷圭介 山本恵子

星野茜 溝口光俊

内藤里巳 中園民江

川窪正典 林克己

伊與田吏美 山本青空

岩月幹季